

小規模企業景気動向調査 [2022年8月期調査]

～業種で異なる需要格差、慢性的なコスト増による採算悪化に苦む小規模企業景況～

＜産業全体＞ 業種で異なる需要格差、慢性的なコスト増による採算悪化に苦む小規模企業景況

8月期の産業全体の業況は、コロナ第7波の急拡大により売上額 DI が2期連続で小幅に悪化、採算・資金繰り・業況 DI が小幅な改善となった。一方で、業種によって売上額 DI の改善と悪化がみられ、格差が生じている。原材料の仕入れごとに価格が変動し、受注の都度、売上原価の再計算を行う事務作業の時間が増加、とのコメントも目立ち、少しずつ間接部門にも原材料価格高騰の影響が出始めている。一段と進行する円安等による原油・原材料の高騰で、産業全体の採算は低水準で推移し、厳しい経営環境・経営状況が続いている。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲100	▲110	▲10
採 算	▲51.4	▲47.9	3.5
資金繰り	▲40.0	▲37.1	2.9
業 況	▲38.5	▲34.6	3.9

＜製 造 業＞ 一部で価格転嫁が進み好調であるも、慢性的な採算悪化に苦む製造業

製造業は、売上額・資金繰り DI が小幅に悪化、採算 DI がわずかに悪化、業況 DI がわずかに改善となった。食料品関連は、原材料高騰により採算 DI が低水準で推移しているが、行動制限のない盆休みで稼働率が上がった、とのコメントがあった。繊維関連は、円安による輸入原材料高騰の影響が大きく、採算 DI が直近 1 年間で、最大の悪化幅を示した。機械・金属関連は、3期連続で採算 DI が改善。価格転嫁が進んでいる、とのコメントがあった。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲ 56	▲ 82	▲ 26
採 算	▲ 54.8	▲ 55.4	▲ 0.6
資金繰り	▲ 40.6	▲ 43.2	▲ 2.6
業 況	▲ 40.8	▲ 40.7	0.1

＜建 設 業＞ 災害関連等の需要増による業況改善に転じるが、先行き不透明感の残る建設業

建設業は、売上額・採算 DI が小幅に改善、資金繰り・業況 DI が大幅な改善に転じた。先月に引き続き、堅調な官公需や民間工事の受注に加え、8月に発生した大雨による災害復旧需要の増加が顕著に見られた。一方で、価格転嫁対策が追い付かないことによる採算悪化、人手不足による納期遅れが発生するなど、引き続き深刻な状況。材料が高騰し続け正確な見積もりができない、売上は増えるが利益が増えないとのコメントが目立った。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲ 102	▲ 82	20
採 算	▲ 602	▲ 564	38
資金繰り	▲ 48.6	▲ 43.1	5.5
業 況	▲ 42.1	▲ 35.6	6.5

＜小 売 業＞ 商品の値上げ、感染症の急拡大等による、売上の悪化に苦む小売業

小売業は、売上 DI が大幅に悪化、採算 DI がわずかに改善、資金繰り DI が小幅に改善、業況 DI が小幅に悪化した。食料品関連は売上額 DI が大幅に悪化。値上げによる顧客の買い控えが顕著、とのコメントがあった。衣料品関連は 10pt 超の大幅悪化。売上の減少する時期に、コロナによる来店客減少の影響が重なった。耐久消費財関連は、エアコン特需が落ち着き、売上 DI が大幅に悪化。半導体不足による供給不足も大きく影を落とす結果となった。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲ 120	▲ 19.7	▲7.7
採 算	▲ 50.3	▲ 49.9	0.4
資金繰り	▲ 40.0	▲ 38.9	1.1
業 況	▲ 40.6	▲ 42.4	▲1.8

＜サービス業＞ 行動制限のない盆休みで活況を取り戻すも、感染急拡大の影響に苦むサービス業

サービス業は、売上 DI が小幅に改善、採算・資金繰り・業況 DI が 10pt 超と大幅に改善した。旅館関連は、先月の大幅悪化から一転、全 DI で 10pt 超の大幅改善。行動制限のない盆休みにより、活況を取り戻した結果となった。クリーニング関連は、原油高騰による採算の悪化と改善を繰り返しており、安定しない。理・美容は、全 DI で改善傾向が続き、安定している。一方、事業者本人がコロナに感染し休業を余儀なくされる、とのコメントがあった。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲123	▲81	42
採 算	▲402	▲300	102
資金繰り	▲308	▲230	78
業 況	▲305	▲194	11.1

調査概要

・調査対象:全国約 300 商工会の経営指導員

・調査時点:2022 年8月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。